

実践課題

- ①差別の現実に深く学び、人権問題を自らの課題として取り組もう。
- ②人権教育実践を通して、人権を大切にしよう
- ③子どもたちの「今」を大切に、豊かな「未来」を保障しよう。
- ④人権教育を推進するなかまづくりをすすめよう。

市人教ニュース

展望

発行 奈良市人権教育研究会事務局
文責 松山明弘

2017年9月11日(月)
NO.2 (通算452号)

奈良市人権教育研究会事務局

TEL 0742-55-2524

FAX 0742-55-8239

市人教ウェブサイト <http://www.sidokyo.com>

E-mail jimukyoku@sidokyo.com

研修内容をこれからの日々の実践に生かそう！

～市人教課題別研修会～

7月26日・8月2日にならまちセンターで、市人教課題別研修会を行いました。4講座合わせたの参加者は、約850名でした。どの講座も、様々な人権課題に気づかされるような話やこれからの日々の実践に生かせるような話を多く聞くことができました。また、8月10日には運営委員夏期研修会、24日には市人教新会員研修会も行いました。今回の『展望』第2号では、各研究推進委員会の記録と参加された方々の感想を掲載いたします。たくさんの貴重なご意見やご感想をいただき、ありがとうございました。

【多文化共生】西和自主夜間中学の今から
～外国にルーツのある子どもたちとその保護者の支援のあり方について～ **山本 直子さん**



外国にルーツのある子ども、そして保護者には、言葉の壁と日本文化に慣れない壁があります。彼らに寄り添い、手を差し延べる力を合わせて生きていける社会、一つの取組を通して見通しをもち、共に生きていける多文化共生の社会づくりが大切です。また、彼らを受け入れる学校園として最も大切な事は、初期対応です。受け入れる側の対応の不十分さ(通訳不足、教科指導できない等)を解決するためには、まずは声をあげていく事です。

【健康】性的少数者も居心地よい学校・園とは？ **中田 ひとみさん**



性的マイノリティーについて「性をどう考えるのか」というテーマで、その現状・課題についてわかりやすくお話していただきました。その子(人)たちは、自分を受け入れられなくて助けを求めにくく、孤独で孤立していることが多いという現状の中で、学校・園でできることは何かと考えると、見た目ではわからない「性」を決めつけずにその子自身を知り、尊重することやありのままの子どもの思いを受け止め、何に困っているのかを一緒に考えていけるように接していくことが大切です。

【豊かな人権教育の創造】部落問題の現状と教育課題 **奥本 武裕さん**



部落問題について、わかりやすく解説していただきました。被差別部落・被差別部落出身者を特定し、忌避・排除しようとする社会意識が現在もほとんど解消されていないこと。部落問題を日本社会における多様な人権課題のひとつとして位置づける視座を確立しなければいけないこと。部落問題を政治や経済格差の問題としてではなく、社会的関係の問題として位置づけ、私たちが日常生活を送っている地域社会を基盤としてその解決をめざしていかなければいけないこと。そのためには、地域住民の主体的な努力によって、特定の人々を抑圧・排除しないような開かれた地域社会をつくっていかねばいけません。

【進路・学力保障】がんばりきれない子どもに向き合う
～授業や活動の取組の工夫～ **本山 方子さん**



「がんばりきれない子どもに向き合う」一人一人の子どもたちの応援団として、私達はどんな取り組みができるのでしょうか。若草中学校区の各校園で実践された、たくさんの事例をもとに、その取組の内容・工夫、そして成果をお話していただきました。そこには、明日からの私たちにとって指針となる事柄が、数多くあったのではないのでしょうか。「がんばりきれない子に向き合う」ことは、教師自らの実践を見直すこと。授業・活動の体質改善をめざし、地道な積み重ねが大切です。

《アンケートにあったご意見より》

(第1講座：多文化共生)

- ・自分の知らないところでたくさんの方が活動されてきて、今の自主夜間中学や様々なシステムがあることを学びました。本校にいる外国にルーツをもつ児童と、また新たな気持ちで向き合い指導や支援をしていきたいと思います。
- ・外国にルーツをもつ生徒・保護者が増えるなかで、対応に苦慮している。価値観の異なる相手の説得やまた相手が何に困り憤っているのか探り意思疎通の努力をしていくことをあきらめてはいけないと思った。また夜間中学の取組の内容が多岐にわたることを改めて知ることができた。
- ・いつ学校に外国籍の子どもが入学してくるかわからない時代になってきている中で、日本語指導の先生がすぐに対応することがその子にとって安心して学校生活を過ごすことにつながると改めて学びました。子どもたちの背景を知ることが、その子の保護者となつたり寄り添うことに繋がり、子どもへの最大の支援になる基本だと思いました。

(第2講座：健康)

- ・私たち大人がひと言添えるだけで性的少数者の子ども達の心を楽にできることがあることを学びました。常に性的少数者がいることを頭に置き、生徒や授業に向き合っていかなければならないと思いました。
- ・まだまだ日常的に同性愛者などLGBTの人が過ごしにくい世の中なのだというところを感じることができた。法律が追いついていないことはもちろん、私たちの意識もまだ男 or 女ということから会話を始めたりしているので、LGBTの人がどういった気持ちで過ごしているのかを考えるきっかけになった。
- ・学校の教育現場でも、男はこう、女はこうあるべきと決めつけないよう、いろいろなあり様があることを意識していきたいと思います。小学生の時点で、すでに性別に違和感があるということに驚きました。自己否定をしてしまうことが少しでも減るよう、個々の子を大切にしていきたいと思います。

(第3講座：豊かな人権教育の創造)

- ・部落問題も他の人権問題と同列であり、それぞれの地域社会を学ぶことが大切だということがとても勉強になりました。ぜひ一度自分の足で校区を歩いてみたいと思います。
- ・教育、学びの結果が社会の思想であるということにその通りであると強く感じた。自分の知識や認識も学びの結果であるが、今日のように、知っているはず、分かっているはずと思っていることをもう一度学ぶことで、あらためて理解できることや新たに知ることがあり、とても勉強になりました。
- ・奈良県民の部落問題がまだまだ十分に浸透していないこと、教育現場で取り上げられていないことが印象に残りました。同和地区があるないに関わらず、学校で学ぶ機会を作るべきだと思いました。

(第4講座：進路・学力保障)

- ・がんばりきれない子どもを変えることは、すなわちがんばりきる(達成)ではないという点が心に残りました。教師の工夫をもって、子どもががんばるように促すことが大切なことはよく理解できました。しかしそれだけではなく、物事に対して子どもがどう向き合うのか、つまり「確かな自己評価」が重要になるかがより現実味をもって考えることができました。「確かな自己評価」を生み出すために、他者の評価を適切に受け止める力を養っていききたいと思います。
- ・子どもの「ほめ」について学ぶことができました。「ほめ」のタイミングや工夫が大切だということを実感しました。教師の言葉に一喜一憂させるのではなく、なかまの評価やクラスで認め合える形が理想な姿だと感じ、タイミングよく言葉かけをしていくよう保育を見直していきたいです。

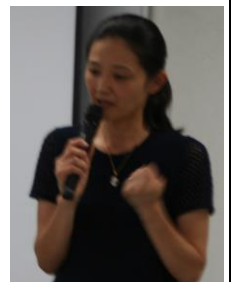
【 運営委員夏期研修会 】

8月10日(木)に生涯学習センターで運営委員夏期研修会を行いました。今年度は、奈人教研究大会の現地特別報告の内容についての学習会という形式で行いました。現地報告『ひとつの学校として Kasuga As One ～昼と夜の交流をつうじて～』を春日中学校の千葉さんと深澤さんから報告していただき、集まった運営委員の方からご意見をいただきました。助言・指導については朱雀小学校の武田さんをお願いしました。

(アンケートより)



- ・もっともっと夜間学級が身近なものになってほしいと思います。不登校の子たちや、いろいろな事情で学校に通えない子たちの学びの場になるようにもしていければと思いました。いろいろな人たちとの関わりで成長につながればと思います。
- ・教職員間の交流であったり、中学生が夜中での学びを通して、自分が学習する事に対する気持ちの変化など知ることができ、今後の子どもたちの変化や成長が楽しみであると思う。多文化共生について、身近なところで学ぶ機会となり子どもたちも人権意識が高められると感じた。



【 新会員研修会 】



8月24日(水)に男女共同参画センターあすならで、新会員研修を行いました。部落解放同盟西之阪支部元支部長の安藤和幸さんより『西之阪町の歴史と現状、今後について』の講演をしていただきました。その後、安藤さんの案内で西之阪地区のフィールドワークも行いました。

(アンケートより)

- ・同和教育の原点である「学校に行けない子を学校へ」という先輩教師のこれまでの取組や活動を知ること、今後奈良市の教育に携わっていく者としての自覚が芽生えました。
- ・「私はいいけど世間は・・・」という意識はよく見かけます。「まだそんなこと言うてんの!？」がすぐ返せる社会になるように自分自身も知り、学ぶことが重要だと感じました。「弱者」と呼ばれる立場の解消には、ひとり一人の意識や考え方を変えていくという、とても重たいことですが、まずは自分が学びたいです。

